

会 議 録

会 議 名		平成 30 年度 第 1 回 八王子市環境推進会議				
日 時		平成 30 年 5 月 18 日 (金)	開 始	13 時 30 分	終 了	15 時 40 分
場 所		八王子市役所職員会館 1 階 第 1 会議室				
出席者氏名	委 員	【環境市民会議】 金子 孝、栗田 和仁、奥村 司、高橋 一郎、佐藤 晃、浅田 政勝、 谷村 伸一（議長）、木野 孔司、沼田 政見、加納 啓有、山下 明子 【市民委員】 飯沢 由里香、小沼 廣、吉川 政雄 【市職員】 小山総合経営部長、佐藤環境部長（副議長）、原田資源循環部長、 坂倉まちなみ整備部長、南部環境政策課長、吉岡水環境整備課長（代理）、 原都市計画総務課長（代理）				
	事務局	環境部環境政策課 : 星主査、道山主事、池田主事 資源循環部ごみ減量対策課 : 木下課長、河井主査、日野主任 環境部環境保全課 : 青木課長、佐藤課長補佐、吉澤主事				
欠席者氏名		田中 猛、池内水循環部長、守屋都市計画部長				
議 題		1. 議題 (1) 八王子市ごみ処理基本計画（素案）概要版（案）について (2) みどりの基本計画の改定に係る基本的な考え方について (3) その他				
公開・非公開の別		公開				
配 付 資 料		【事前配付】 ・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 資料 1 八王子市ごみ処理基本計画（素案）概要版 ・ 資料 2 「みどりの基本計画」の改定に係る基本的な考え方について 【当日配付】 ・ 資料 1（差替） 八王子市ごみ処理基本計画（素案）概要版				
内 容		・ 谷村議長挨拶 ・ 委員の出欠及び配布資料の確認 1. 議題 (1) 八王子市ごみ処理基本計画（素案）概要版（案）について ・ 資料 1（差替）に基づき、事務局（ごみ減量対策課）より説明した。 【説明内容抜粋】 ■「計画策定の趣旨」として、これまでの取り組みについては、平成 28 年度（2016 年度）において、リデュース（1 人 1 日あたりの総排出量）は全国で 2 位、リサイクル率は全国 3 位の実績を残すことができ、平成 30 年度（2018 年度）には「埋立処分量ゼロ」を達成できる見込みである。また、現行計画の策定から 5 年が経過し、超高齢・人口減少社会の到来を見据えた対策の検討など社会情勢の変化により顕在化した課題を踏まえて、計画を見直すこととした。 ■「実績と目標」については、1 人 1 日あたりの総排出量（平成 35 年度 760g、平成 40 年度 740g）、リサイクル率（平成 40 年度 35%以上）及び CO2 排出量（平成 35 年度 40,000t 以下、平成 40 年度 38,000t 以下）の 3 項目の数値目標を設定している。				

■ 今後は、平成 30 年 5 月 23 日に八王子市環境審議会に報告し、7 月にパブリックコメントを実施し市民の方々から意見を頂く予定でいる。

【質疑応答】

■ 【栗田委員】 2 ページの 3. 実績と目標の②リサイクル率における実績について、資源物回収量が減少しているため目標は達成できていないとあるが、資源物の回収量はリサイクル率の分子と分母の両方に含まれるため、資源物回収量が減少してもリサイクル率は変わらないのではないか。

→ 【原田委員】 例えば、10 ある普通ごみの内、8 が資源物回収量とした場合にリサイクル対象となるごみは 10 分の 8 となるが、そこから資源回収量が仮に 5 減少した場合、普通ごみに対する資源回収量は 5 分の 3 となり、その結果リサイクル率が減少する。

■ 【高橋委員】 資料の中でリデュース（1 人 1 日あたりの総排出量）となっているが、言葉の意味として違和感がある。リデュースとはごみの総排出量を指す言葉なのか。2 ページではリデュース（1 人 1 日あたりの総排出量）、5 ページでは Reduce（発生抑制）とあり、同じ言葉が別の意味で使われていて、混乱する。

→ 【事務局】 ご指摘して頂いた部分も含め、リデュースという言葉への解説についても、解釈が人それぞれ違うかもしれないので、言葉の定義について整理する。

■ 【奥村委員】 説明の中で環境教育に関して、ごみ問題に限らず環境問題として捉えるならば、人材育成の前に人材の発掘をしっかりとやっていく必要がある。そのような人材をいかに増やしていくかという観点での取り組みをお願いしたい。

■ 【沼田委員】 1 ページの 2. 成果と課題の事業の類型における、市民・事業者・市の協働について、例えばマイバックの普及など課題として挙げられているが、目標としてはどのように考えているか。

→ 【事務局】 スーパーなどでの調査では約 38%の方がマイバックを持参している。マイバック協力店の方から他市と比較するとマイバック持参率は比較的高いと聞いている。今後は、2020 年のオリンピック・パラリンピックまでに、東京都がレジ袋の有料化を検討しており、動向に注目している。

■ 【吉川委員】 1 ページの 1. 計画策定の趣旨のこれまでの取り組みにおける、不燃物処理センターでの手選別ラインの導入について、私の考えでは分別しリサイクルできるものとして、金属類を思い浮かべるが、市民の方に金属類の分別を協力していただく方法もあると思う。また、定期的に見学会を実施して、手選別ラインの業務を見せたらどうか。

→ 【事務局】 手選別のラインの導入については平成 27 年度から行ってきた。事前にご連絡いただければ、手選別ラインの見学はいつでもできる。また、分別については、市民に理解をいただき行っており、これ以上分別を細かくするのは難しいので、手選別などで分別することで、資源化していきたい。

■ 【金子委員】 マイクロプラスチックについて、市の見解をお聞きしたい。

→ 資源循環部の取り組みの中でマイクロプラスチックに特化して対策をとることは検討していないが、ビジョン 2022 に環境負荷の少ないまちづくりという取り組みは挙げている。

■ 【山下委員】 マイバック持参率約 38%とあるように、数字で表すことで市民にとって、分かりやすいので、そのような工夫をしていただきたい。

■ 【加納委員】 7 頁の重点取り組み④について、市内の 2 清掃工場体制を基本との記載がある。これは、八王子市内のごみがこの 2 工場だけで処理しているように見えるが、実際は多摩清掃工場で行っている分は含まないのか。撤退を考慮してのことか。

→ 【事務局】 多摩清掃工場の撤退はせず、継続していく。その中で、平成 34 年度以降は八王子市内では戸吹と新館の 2 清掃工場での処理を基本としていく。

(2)「みどりの基本計画」の改定に係る基本的な考え方について
・資料2に基づき、事務局（環境保全課）より説明した。

【説明内容抜粋】

■「みどりの基本計画」とは都市緑地法に基づき策定しており、市内の公園緑地の適正配置や整備、自然環境の保全、都市緑化の推進など緑に関する各種施策を総合的にまとめたものである。その計画に基づき、みどりの保全や推進を図ることで、みどりを生かした豊かなまちづくりを推進することを目的としている。

■改定について、現行の基本計画が平成32年3月に満了となることから、平成30年・31年の2年間で見直し、平成32年度を初年度とした10年間の計画として改定を行う。また、平成36年度（2024年度）については、その前年度の環境基本計画の全面改訂に伴い、中間見直しを行う予定である。

■計画の位置づけについて、みどりの基本計画には、整合すべき上位計画として八王子ビジョン2022（基本構想・基本計画）と第2次都市計画マスタープラン（平成27年～36年）、環境基本計画から成る3つの計画がある。他にも連携を図る計画として地球温暖化対策地域推進計画や産業振興マスタープランなどもある。

■計画の基本的な考え方については、現行の取組みから、①みどりの量の確保だけでは解決できない課題の存在があること、②行政全体でみどりを適正に保全することに限界あることが課題として見えてきている。以上を踏まえた上で、新たな目標及び視点として、①みどりの質の向上、②市民・事業者との協働によるみどりの保全を挙げ、地域性を生かし、市民・事業者・行政との協働による取組みを推進していく。また、現行の環境推進会議及び環境審議会に加え、より市民と事業者等の意見を反映する組織として策定検討懇談会の設置（みどりの基本計画のみ）を検討している。

【質疑応答】

■【山下委員】5 現行の体系図のリーディングプロジェクトの1つに、（6）いきもの調査の実施について、調査と実施結果は出ているという認識でよいか。また、これから他の生きものについて調査する予定はあるか。

→【事務局】調査については実施しているものも含め、総合的に検討していきたいと考えている。

■【山下委員】5-（2）現行計画の取組状況の6 自然体験を重視した環境教育・環境学習の推進について、エコひろばで川の学習をやっていると思うが、それについての記載漏れ等はないか。

→【事務局】特に記載はないが、エコひろばで川の学習も関係所管として把握はしている。

■【山下委員】里山の保全について、市の活動としてはどのように考えているか。

→【事務局】基本的には、里山の箇所数を環境基本計画で定めている。そこで活動して頂けるように里山サポーターの育成講座を行っている。その中で、協働しながら活動できる様な支援を行っている。

■【奥村委員】5 現行の体系図について、行政主導で計画を立ててリーディングプロジェクトについては、資料として整理したらこの様な形に現状としてなっているということか。

→【事務局】庁内検討会を始め、関係所管と検討・調整を踏まえて整理している。また、各会議での市民からのご意見も反映できる形で進めていきたいと考えている。

■【金子委員】環境基本計画とも関連する、緑被率が約6割と認識しているが、これからの計画で比率が上がっていく見込みはあるか。

→【事務局】現行のみどりの計画では緑被率61%の維持を目標として掲げている。

■【山下委員】保全活動について、市民が良い活動をしように思っても、地域の団体に加入しないと活動することが難しいのではないかと。市民が個人でも参加しやすく、貢献できる様な環境づくりが大事なのではないかと。

→【事務局】協働を推進していくという意味では、公園や里山を始め、個人参加型の活動方法を今後も検討していく。

■【沼田委員】5 現行の体系図に（1）八王子駅南口の緑化とあるが、これはどのような様なものか。

→【事務局】八王子駅南口のどちの木デッキを始めとした緑化を指している。

	<p>■【飯沢委員】7計画内容について、現在、公園の木や並木通りにおいて植えた時は、景観と上手く収まっているが、成長してくると景観を損なったり、雑草が生い茂り、維持管理ができていないように見受けられる。そのためにも、市民1人からでも維持管理に参加できる様な活動できる場所をもっと盛り上げて提供して欲しい。 →【事務局】できるだけ見直しを行い、個人でも関わりやすい形も検討していく。</p> <p>■【谷村議長】以上、第1回環境推進会議を終了いたします。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>署名人</p>	<p>平成 30年 7月 30日 署名人 沼田 政見</p>